

事業計画書

平成29（2017）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

【目次】

I	アドベンチスト福祉会の基本理念	2
II	平成29年度アドベンチスト福祉会の事業計画	4 - 5
III	組織図	6
IV	事業別事業計画	
	【シャローム横浜】	1 - 1 1
	【シャローム桜山・グループホーム シャロームミルトスの木】 ...	1 - 4
	【横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ】	1 - 8
	【シャローム三育保育園】	1
V	年間スケジュール予定表	1 - 1 2

アドベンチスト福祉会の基本理念

いのちを敬い
いのちを愛し
いのちに仕える

覚えていたい聖書の言葉（黄金律）

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい」

（マタイによる福音書 7:12）

社会福祉法人アドベンチスト福祉会 平成29年度事業計画

対人援助とケアの本質を踏まえて 理事長 白石 尚

医療、看護、介護、保育の現場でおこなう対人援助は人間関係に基づいています。しかし通常の人間関係と異なる専門的な援助技術のことを対人援助といいます。対人援助における人間関係は、援助する側の人間観、援助についての考え方、価値観に大きく影響されます。これは言いかえると、援助する人自身が人間をどう見ているか、なにを大切に思っているか、何を援助と考えているかによって、援助の内容、質が規定されるということです。

そもそも対人援助とは、被援助者、利用者の心配、気懸り（ケア）を、十分な配慮・気遣い（ケア）をもって引き受けることです。英語に“take care of(～の世話をする)”という表現がありますが、アドベンチスト福祉会の諸施設において利用者をケアするということは、まさに「利用者の気懸り（ケア）を取る・引き受けよう」という意味ではないでしょうか。ここに対人援助というものの原点があります。

援助して何かを「与える」のではなく、むしろ利用者・患者の心配・気懸りを「引き受ける・担う」という発想から従来の援助に対する考え方を見直すとき、そこに対人援助の新しい地平が開けてくるのではないのでしょうか。

そのとき、われわれがまず最初にしなければならないことは、被援助者がどのような心配、気懸りを胸に秘めているかを察知し、またそれにどのように耳を傾けていくのかということです。そして、そこで築くことができた最初の信頼関係がすべての対人援助の出発点になるのです。

しかし、最近の対人援助の現場での仕事の意味についての疑問、そしていわゆる「燃えつき現象」などを考えるとき、それらに共通した深い原因には、この対人援助業務の意味にかかわることが多いといわれます。われわれは日常業務において、その困難、その原因、そして仕事への意味とわれわれの援助への意欲を考えると、これら対人援助業務そのものの意味が明確になってはじめて、援助の現場において安心してそれぞれの仕事に専心できるだろうし、援助の方針も立てることができるのです。

医療、看護、福祉の現場で人間的な援助が困難であることの理由に、キュア（治療）概念への過大な依存があります。キュア概念においては治療によって病気を治すように、生の原状回復を目的としています。キュア概念においては、「古い・病い、死」を日常的生活からの逸脱とみることとなります。対人援助の現場でのその方法的表現は、援助の対象である「人」全体より、病いを発症させている部位に関心が心が集中し、全体的認識に欠ける傾向にあります。そしてまた、そのことが非援助者とのかかわり方においても専門家による上下・主従関係という強

者＝弱者関係を生み出しやすい土壌を提供することになるのです。

この非をただすためにわれわれは、その対比概念として対人援助の原理をしてのケア概念の特性を探求する必要があるのです。ケア概念の基点は「古い、病い、死をも含んだ生」そのものです。そこで援助者自身が、ともに老いるべき者、ともに病むべき者として、有限が存在である自己を受容し、苦しみの中にある人の想い・願いを支えるのです。

戦後の高度成長期の日本社会において、古い、病い・死などはマイナス価値を示すものとして否定され、社会の表面から隔離されてきました。老人は「古い」の意味を噛みしめることなく、「若さ」が意識され強調されてきました。病人は「病い」に学ぶことなく一日も早く「病気」から脱出し、健康な輝く日常生活に復帰しようとし、病気は一種の災難であり、健康な日常生活から誤って落ち込んだ落とし穴にすぎないのです。老人はいつまでも「若い」といわれることを望み、瀕死の病人も「必ずよくなる」と励まされる。現代社会において人々は、古い・病い・死という人間存在の有限性に直面することから目をそらし、それらの人間が避けることのできない経験から学ぶことを忘れてしまったのです。

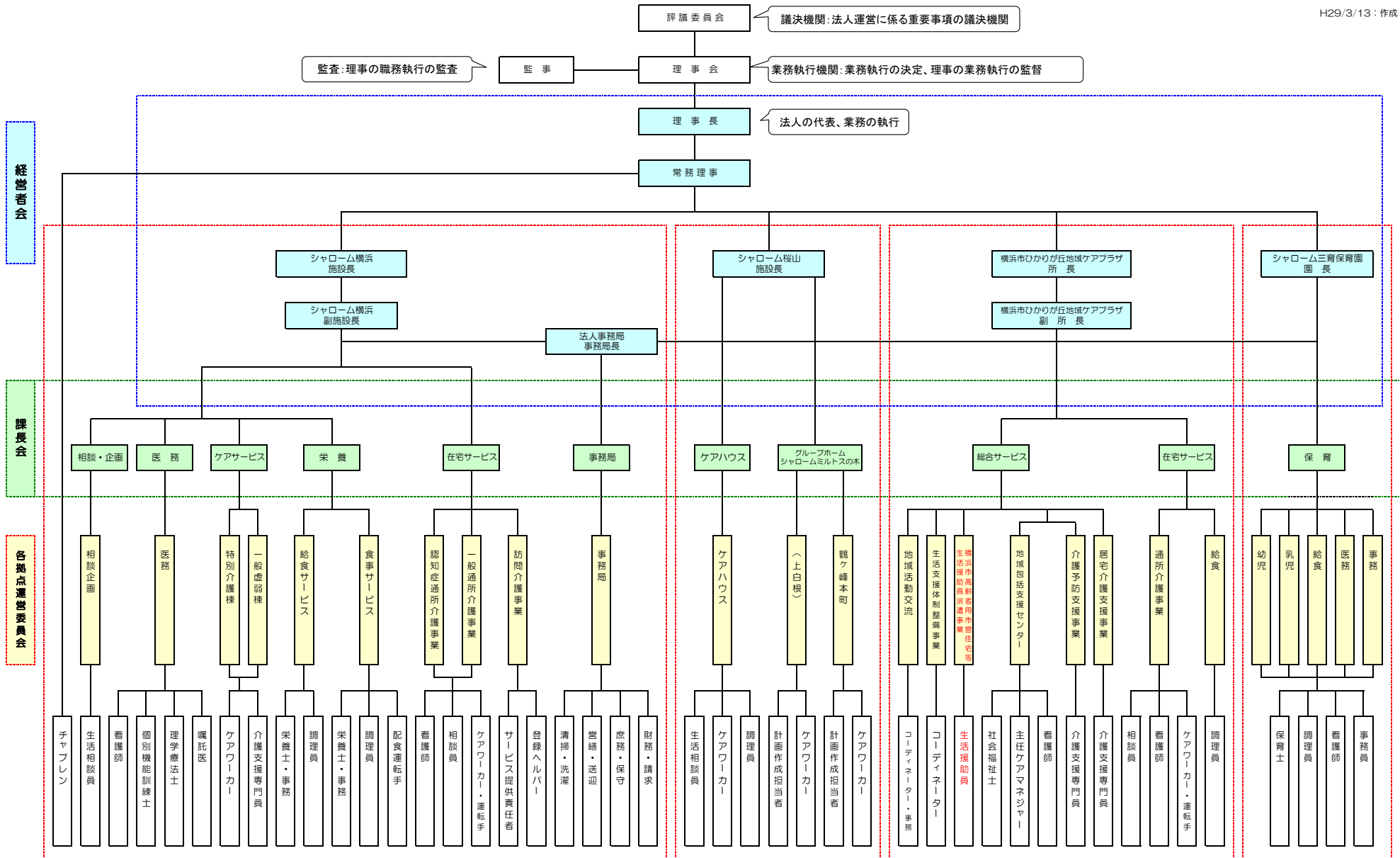
生は死を含んでいるのです。しかし、現代の医療、福祉施設においては被援助者にそれを語る言葉がありません。往々にしてそれに耳を傾けてくれる専門家も家族もいないのです。わたしたちの側に「死を含んだ生」という生命認識が生まれないかぎり、死に対面した人間の孤独は理解されることはないのです。

わたしたちは利用者がその中に投げ込まれている苦しみを和らげ、あるいは解消することに対人援助の意味を見出したいのです。キュアの及びえぬところかケアが始まるのです。『介護福祉士』の業務こそこのケアの概念が発揮されるべき分野です。

病んでいる時、人は孤独です。身体的苦痛、死への恐れ、残された家族への思い、死後の世界への不安、そしてやり残した仕事と自分自身の生の意味。それらが被援助者の苦悩を倍加し、整理されぬまま孤独のうちにおかれます。このとき被援助者の身体的回復や社会復帰を目的とするキュア概念による治療ではなく、被援助者その人の「思い」と聴き取り、その人にとって意味ある生を完結できるよう配慮するケアが求められ、必要とされます。そしてそこでは、もはや援助者の「生の原状回復」を図るより、利用者と同じ眼の高さで思いを聴き取り、共に死に学ぶ新しい援助関係が求められるのです。

そのためにはまず、被援助者がおかれている現実の状態を認め、援助者自身がそれを受容することです。つまりその基点をキュア概念のように「健康な生」におくのではなく、たとえそれがどのように受け入れがたくとも、その現実である被援助者の「古い、病い、死」を認識の基点とするのです。『ともに死すべき者』『ともに老いるべき者』『ともに病むべき者』として援助者も非援助者も、の人間としての有限性を確認することから、無限なるものの働きかけを感受することがはじまります。避けるべき、厭うべき、「古い・病い、死」を受け容れ、共にそこから人間的成長の学びを発見し得ることができる援助関係に、わたしたちはケア概念の特性をみることができるのです。

平成29年度 社会福祉法人アドベンチスト福祉会 組織図



事業計画書

平成29（2017）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム横浜

【目次】

1	施設長	2
2	相談・企画課	3
3	医務室	4
4	ケアサービス 特別介護棟（3階）	5
	一般虚弱棟（4階）	6
5	栄養課	7
6	事務局	8
7	在宅サービスセンター 通所介護（一般）	9
	認知症対応型通所介護（ひまわり）	10
	訪問介護	11

平成 29 年度 シャローム横浜事業計画 基本方針

施設長 村本 英邦

シャローム横浜は、福祉実践の根拠を聖書に置いた上で「人間とその現実」を見届ける姿勢を福祉理念として掲げている。「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」という理念は、「命」と「いのち」の意味が高い次元で結びつく喜びをご利用者とそのご家族が多くの関係性の中で実感できるようにと、日々変化のご利用者とその現実に対して向けられる取り組みを目指すものである。私たちは、そのいのちの物語をご利用者と共に感じ、見つめるという体験によるケアを我々の基本方針としたい。

この基本方針に沿って、これまで「寄り添うケアの実践」の具体的な取り組みとして行ってきた「看取りケアの追及と実践」と「認知症ケアの追及と実践」について更に充実させたい。またシャローム横浜には、多様化する社会のニーズに応えるため制度を超えた福祉の働きが求められていることを職員一人一人が意識してほしいと思う。そのためにも各部門の独自性を十分に発揮できる環境を整え、課せられた使命について考え、既存のサービスに固執せず、新たな課題を見つけて取り組んでいく意欲と姿勢を期待したい。これまでの「与えられた条件」の中で行うサービスに終始せず、自分達が「やってみたいと考えるサービス」を提案しその実現に向けてチャレンジしてほしいと思う。

実践のテーマ：「チャレンジ」

1. 「広い気づきと深い共感」の感性をもった職員の育成
2. 各部門の業務内容を他部門に理解してもらうための取り組み
3. 他部門との協働による新しい取り組みへの挑戦
4. 「シャロームらしさ」を具現化するための取り組み

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
相談・企画課	杉山 肇
I	事業基本方針 1 地域へのサービスを最大限に行えるよう、高利用率の維持と向上を計る。 2 ご利用者が「自分らしく」生活を営んでいくことができるよう、常に寄り添いながらご家族と関係調整を計っていく。 3 シャロームを利用して良かった、また利用したいと思われるサービスの提供を行う。
II	業務目標 1 高稼働率を維持・安定化の構築 ・特養待機者確保のため、待機者の事前面接を実施する。 ・退所後の空床日数の減少とショートステイの空床利用を推進する。 ・ショートステイを円滑に利用していただく。 ・家族会との連携を強化し、あたたかい介護を支援する。 2 地域へチャレンジ ・地域と歩む特養を目指し、地域活動を積極的に行う。 ・近隣施設と連携し、地域のニーズを把握する。 3 新たな業務へのチャレンジ ・新たな業務の検討と構築を図るため、5 Sにより徹底した仕事の効率化と見直しを行う。 4 第三者評価の実施 ・より望ましい水準のサービスを追及し、ご利用者により適切に選択していただく。
III	事業数値目標 1 特養・ショートステイ合計で97%以上の稼働率維持と向上を図る。 2 待機者リストの整理を、原則3日以内でまとめる。 3 特養待機者事前面接：3名程度常時確保する。 4 サービスの向上や地域のニーズ把握の為、近隣施設生活相談員交換会を月1回行う。 5 デスク周りの整理整頓を、月1回実施する。(目に見えた5 S実行) 6 伝達研修及び、事例検討を、年6回行う。
IV	業務の改善・見直し (部門の従来からの欠点・弱点の改善) 1 介護保険ソフトやGセッションを活用し、業務の効率化と見える化を図る。 2 仕事にメリハリをつけ、相談員が休みを取れる環境を継続し計画有休を試行する。
V	業務の強化・向上 (従来からの強み・良い点の強化向上) 1 家族会との関係を充実させ意見交換を行い、共同で企画を立案するなど、ご家族の声を伺える機会を検討する。 2 緊急ショートステイが必要な方に対し、特養の空床ベッドを活用し受け入れを行う。 3 地域イベントへの参加、近隣地域ケアプラザ及び自治会活動等と交流、近隣教育機関との連携を構築し、地域と歩む特養として地域貢献の窓口となる。
VI	業務の新たな試み (新たなニーズへの対応・開発) 1 近隣地域ケアプラザや教育機関と連携を図り、シャロームの特徴を伝えてファンを増やす。 2 ツイッターなどのSNSを活用し、“シャロームの良さ”を世間の方に知って頂く。 3 多様化する情報発信について、適切な情報管理が出来るよう、マニュアルを作成する。 4 終活セミナーを計画し、家族会や地域の方に“いのち”について考える機会を設ける。 5 さまざまな複合化した生活課題を抱えながら、生活をされている方々への対応を行えるよう、研修などに参加しスキルアップを計る。 6 10年後のシャロームを想定し、今やるべき事を話し合い抽出し、具現化に向けて取り組みを実行する。

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
医務室	品末直美
I	事業基本方針 <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者が最期まで本人らしく、安心した生活を送ることができるよう支援する。 2 感染症を予防する。 3 認知症のご利用者が穏やかに生活できるよう支援する。
II	業務目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者・ご家族が、入所時から最期まで安心して過ごせるよう、医療との連携、環境の整備を行う。 2 感染症の拡大を防止する。 3 認知症ケアの基本を再確認し、多職種協働でご利用者を支える。
III	事業数値目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 看取り後の振り返りカンファレンスを多職種で行う。・・・4回/年以上。 2 ご利用者対象にタクティールケアを実施する。・・・16回/月。 3 非常勤職員が年1回以上研修に参加する。・・・6回/年。
IV	業務の改善・見直し （部門の従来からの欠点・弱点の改善） <ol style="list-style-type: none"> 1 業務スケジュールの見直しを行い、効率化を図る。 2 感染症対策マニュアルの見直しを行う。 3 認知症ケア、感染症の勉強会をケアワーカーと共同で計画、実施する。 4 配薬、食事介助、受診・入退院等の業務に関し、ケアワーカー、相談員と役割の見直しをする。
V	業務の強化・向上 （従来からの強み・良い点の強化向上） <ol style="list-style-type: none"> 1 AED等リスクに関する研修を実施する。 2 職員個人の目標にそった外部研修に参加し、スキルアップにつなげる。 3 他部門からの要望に応じ、医療的ケアの研修を実施する。
VI	業務の新たな試み （新たなニーズへの対応・開発） <ol style="list-style-type: none"> 1 職員にタクティールケアを実施し、認知症ケアの理解を深める。 2 家族会と相談企画課、ケアサービス課と協力して新たな企画をする。 3 近隣施設の看護部との交流、連携の機会をもつ。

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
ケアサービス課 特別介護棟	山崎薫・山本朋子
I	事業基本方針 <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者の個性に視点を合わせることに由る小さな「気づき」を大切にし、1つずつ積み重ねながら、共感する姿勢を身につける。 2 他部門との連携を深めることにより、他職種への理解や協働をすすめていく。 3 「あったかいがいいね」という気持ちのご利用者だけでなく、ご家族や外部の来訪者にも伝わるよう明るく挨拶を実施する。 4 外部研修後伝達研修を行う事で知識・技術の向上を目指す。
II	業務目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 回想法や音楽療法にケアワーカーが参加することにより、スーパーバイザーから気づきの視点を学び、ご利用者との関係性を深めることにより言葉にできないご利用者の要望もくみ上げていく。 2 他部門への交換研修を実施し、業務内容を理解する。 3 保育園や小学校への行事にご利用者と共に参加し、楽しめる機会を作る。 4 まずは職員間の挨拶を実施し、ご利用者や来訪者への挨拶にいかす。
III	事業数値目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 ケース担当からご利用者の新たな側面を伝えると共に、他の職員の発見も共有する報告会をつき月1回以上実施。 2 外部研修へ3名以上の参加 3 回想法（グループ、個人、ミニ）年3回以上実施、個人音楽療法へのケアワーカーの週1回の参加。 4 相談企画課、医務室等と連携しながら、稼働率の97%の維持と向上。
IV	業務の改善・見直し （部門の従来からの欠点・弱点の改善） <ol style="list-style-type: none"> 1 感染予防マニュアルの充実と徹底。 2 ご利用者の生活に合ったタイムスケジュールを実施するために業務の効率化。 3 ヘアブラシ等の個別化。 4 ご利用者が落ち着ける生活空間作りを検討（3階） 5 個人に合った排泄、入浴について方法、回数の見直し。（3階） 6 ご利用者が気持ちよく生活できるよう、整容・清潔の充実。（3階）
V	業務の強化・向上 （従来からの強み・良い点の強化向上） <ol style="list-style-type: none"> 1 1つの気づきから、ご利用者が気持ちよく生活できるよう具体的なケア方法を実施。 2 スーパーバイザーの助言を実際のケアにいかす。 3 個人に合ったレクリエーションの検討や実施を継続する。また、担当係以外職員のレクへ関心を増やしていくと共に、技術、方法を全職員で共有していく。（3階）
VI	業務の新たな試み （新たなニーズへの対応・開発） <ol style="list-style-type: none"> 1 EPAの継続的な援助と関わりにより、スキルアップを図る。 2 他部門への理解を深めるために交換研修の実施。 3 今年度中に職員のフロア間移動を最低2名行う。 4 リフト・トランスボードを活用し、安全・安心な移乗方法の確立。（3階）

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
ケアサービス課 一般虚弱棟	山崎薫・山田康裕
I	<p>事業基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ご利用者の個性に視点を合わせることによる小さな「気づき」を大切に、1つずつ積み重ねながら、共感する姿勢を身につける。 他部門との連携を深めることにより、他職種への理解や協働をすすめていく。 「あったかいがいいね」という気持ちをご利用者だけでなく、ご家族や外部の来訪者にも伝わるよう明るく挨拶を実施する。
II	<p>業務目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 回想法や音楽療法にケアワーカーが参加することにより、スーパーバイザーから気づきの視点を学び、ご利用者との関係性を深めることにより言葉にできないご利用者の要望もくみ上げていく。 他部門への交換研修を実施し、業務内容を理解する。 保育園や小学校への行事にご利用者と共に参加し、楽しめる機会を作る。 まずは職員間の挨拶を実施し、ご利用者や来訪者への挨拶にいかす。
III	<p>事業数値目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ケース担当からご利用者の新たな側面を伝えると共に、他の職員の発見も共有する報告会を月1回以上実施。 外部研修へ3名以上の参加 回想法（グループ、個人、ミニ）年3回以上実施、個人音楽療法へのケアワーカーの週1回の参加。 相談企画課、医務室等と連携しながら、稼働率の97%の維持と向上。
IV	<p>業務の改善・見直し（部門の従来からの欠点・弱点の改善）</p> <ol style="list-style-type: none"> 感染予防マニュアルの充実と徹底。 利用者の生活に合ったタイムスケジュールを実施するために業務の効率化。 ヘアブラシ等の個別化 口腔ケアの実施方法を歯科衛生士による助言を参考に取り組み（4階） 掲示物・マニュアルが閲覧しやすいよう統一化。（4階） 時間配分等業務内容の統一化（4階）
V	<p>業務の強化・向上（従来からの強み・良い点の強化向上）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1つの気づきから、ご利用者が気持ちよく生活できるよう具体的なケア方法を実施。 スーパーバイザーの助言を実際のケアにいかす。 介助方法や業務についての基本事項の再確認と徹底。（4階） レクリエーションを通して余暇時間の充実とご利用者とのふれあいの強化。（4階）
VI	<p>業務の新たな試み（新たなニーズへの対応・開発）</p> <ol style="list-style-type: none"> EPAの継続的な援助とスキルアップを図る。 他部門への理解を深めるために交換研修の実施。 今年度中に職員のフロア間移動を最低2名行う。 毎月1回の行事企画の実施・また週1回のレクリエーションの実施。（4階）

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
栄養課	小寺 秀偉
I	<p>事業基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護保険が始まって以来、常に栄養課ではご利用者の嗜好に合わせた食事作りに取り組んできた。平成29年度もこの姿勢を崩すことなく、ご利用者に満足して頂ける様な食事作りを実践していきたい。 2 食事サービスは、在宅生活者に食事をお届けすると共に、声かけ・見守りを行うことで安否確認や孤独感の解消を目指す。また、隣にある三育小学校へのお弁当提供などの新しいニーズに対しては、積極的に取り組んでいく。
II	<p>業務目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者の食事の楽しみと満足度を高めるために郷土料理を取り入れたメニューを1ヶ月に一回提供する。 2 食事サービスは、献立の内容の充実を目指すとともに、小学生向けの菜食献立を新たに作成し、提供する。また、お弁当を通して、子どもたちに正しい食習慣や食事の大切さを小学校と協力しながら伝えていく。 3 食事量が減り、終末期を迎えようとする利用者へ少しでも食事で幸せを味わってもらえるよう、一人一人の状態に合わせた特別食の提供を行う。
III	<p>事業数値目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食事サービス：1日100食を維持する。
IV	<p>業務の改善・見直し（部門の従来からの欠点・弱点の改善）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調理員の不測の事態に備えて、栄養士が厨房内業務もこなせるようにする。 2 補助食品の見直しを行うことで、より効率的にご利用者の栄養状態の維持・改善を図る。 3 原価の高騰に伴い、食材料費の見直しを行う。 4 食事サービスは、小学校へのお弁当提供開始に伴い、食数の変動にも対応出来るよう、調理環境や業務マニュアルの見直しを行う。また、配達ルートの見直しを実施する。
V	<p>業務の強化・向上（従来からの強み・良い点の強化向上）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近隣地域における栄養指導を年2回行う。 2 会食会のお弁当担当を調理職員が年2回担当することで、職員のスキルアップを図る。 3 食事サービスは菜食の取り組みや、小学校へのお弁当提供に伴い、調理の技術を高めるために、関連施設への研修等を実施する。
VI	<p>業務の新たな試み（新たなニーズへの対応・開発）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 他部門の業務を理解するための交換研修（特別介護棟、一般虚弱棟での現場研修）を行う。 2 三育小学校側からの要望により、菜食のお弁当の提供体制を構築する。

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
事務局	滝沢 泰彦
I	<p>事業基本方針</p> <p>シャローム横浜事業計画基本方針の下、法人事務局は『正速美』を合言葉に広い気づきと深い共感をもって、他部門と協働し、新しい取組に『チャレンジ』していきます。</p>
II	<p>業務目標</p> <p>法人事務局の業務目標は、『正速美』。正確に速く美しく仕上げる事を心がけて業務改善に『チャレンジ』していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 業務の流れを潤滑にするためのシステム作りを更に押し進め効率化に努めます。 2 経費の見直しや助成金または補助金の活用など、経費削減に努めます。 3 職場の環境を整え、職員やご利用者が気持ちよく利用できるよう努めます。
III	<p>事業数値目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経費削減額と助成金または補助金取得額合計で1000万円を目標にします。
IV	<p>業務の改善・見直し（部門の従来からの欠点・弱点の改善）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 請求担当者の変更に伴い、業務の見直しと効率化を検討し改善に努めます。 2 古くなった設備を助成金や補助金を使用し更新します。 3 日本財団などの施設車両助成制度に応募します。 4 職員の定期健康診断の項目および費用を見直します。 5 雇用関係の助成金を積極的に申請します。 6 施設内外の美化に努め、季節感のあふれるロビーづくりを目指します。
V	<p>業務の強化・向上（従来からの強み・良い点の強化向上）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今まで以上に他部署との情報の共有を図り、更に連携を強化することにより、より良いサービスがスムーズに提供できるよう努めます。 2 外部研修や展示会など積極的に情報収集に努め、業務の効率化、経費削減、助成金や補助金の取得、職場の環境を整えます。
VI	<p>業務の新たな試み（新たなニーズへの対応・開発）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事務局と相談企画課がワンフロアになることにより、事務作業、窓口業務、電話取次ぎ業務などの効率化を計ります。

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
通所介護（一般）	遠藤 洋子
I	事業基本方針 1 法人理念に基づくあたたかい介護福祉の実践。 2 社会資源として、利用枠を最大限に活用する。 3 ご利用者・介護者の安心につながるサービス提供の追及と実践。
II	業務目標 1 看取りケアについて通所介護事業所としての役割や支援の可能性を追求・実践する。 2 認知症ケアへの理解を深める取り組みを行い、ご利用者の生活向上と介護者の負担軽減につながる支援を行う。 3 地域社会への発信と施設全体の協働を常に意識して業務に取り組む。 4 介護保険外サービスを積極的に選んでいただけるよう整えることで、より充実したサービス提供を目指す。 5 在宅サービスセンターとして、認知症対応型通所介護・訪問介護と共に助け合い、協力することで、ご利用者に対して一体的なサービス提供を行う。
III	事業数値目標 1 定員25名枠において1日平均24名、稼働率96%を目指す。 2 ニーズ・嗜好調査などを年1回行う 3 職員教育の充実を図るために、年1回の外部研修に参加する。
IV	業務の改善・見直し（部門の従来からの欠点・弱点の改善） 1 年間行事及び娯楽活動等の見直しを行い、生活機能向上を目指す。また、内容を深めた行事・レクリエーションサービスを検討していくことで、準備等における職員の負担軽減を図る。 2 勤務体制及び業務内容の見直しを行い、情報を共有化することで、ひまわりとの他部署意識をなくし、より良い介護現場を目指す。 3 ご利用者の処遇や連絡事項などについて職員が共通認識を持って対応できるように連絡、伝達体制を強化する。
V	業務の強化・向上（従来からの強み・良い点の強化向上） 1 「アラジンと魔法のランプ」（介護保険外サービス）のチケットをご利用者1人につき年1回（誕生日）配布し、ニーズに柔軟に応じていく。 2 クラブ活動、レクリエーションを単に提供するだけでなく、利用者個人の残存機能の維持、向上に繋げる個別援助を行う。 3 短期入所併設という強みを生かして、利用率拡大のための営業活動を行う。
VI	業務の新たな試み（新たなニーズへの対応・開発） 1 短期入所者に対するサービスとして、通所のスポット利用として自費利用を促し、ご利用者の生活意欲の低下を予防する。 2 ひまわりとの娯楽活動等の業務連携を取り、双方のご利用者にとって、より良いサービスを提供する。

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
認知症対応型通所介護（ひまわり）	田中 典子
I	事業基本方針 1 法人理念に基づくあたたかい介護福祉の実践。 2 認知症ケアに特化したひまわりを社会資源として、利用枠を最大限に活用する。 3 ご利用者・介護者の安心につながるサービス提供の追及と実践。
II	業務目標 1 看取りケアについて「ひまわり」としての役割や支援の可能性を追求・実践する。 2 認知症ケアを学び、職員自身がスキルアップすることで、認知症の専門機関としての責務を果たす。 3 地域社会への発信と施設全体の協働を常に意識して業務に取り組む。 4 介護保険外サービスを積極的に選んでいただけるよう整えることで、より充実したサービス提供を目指す。 5 在宅サービスセンターとして、一般デイサービスと共に助け合い、協力することで、ご利用者に対して一体的なサービス提供を行う。
III	事業数値目標 1 定員12名枠において、1日平均11名、稼働率92%を目指す。 2 介護者向け懇談会の開催。運営推進会議を兼ねた全体会を年1回、ミニ懇談会（夕やけサロン）を6ヶ月ごとに3日間、日帰りバスハイクを年1回行う。 3 職員教育の充実を図るために、年1回の外部研修に参加する。
IV	業務の改善・見直し（部門の従来からの欠点・弱点の改善） 1 行事等について、一般デイとの連携により、対象となるご利用者へのさらなるサービス向上をはかる。 2 看取りの対応、及びグリーンケアの充実をはかり、いのちに深く寄り添い共感する。 3 勤務体制及び業務内容の見直しを行い、情報を共有化することで、一般デイとの他部署意識をなくし、協力してケアを提供できる体制を構築する。 4 ご利用者の処遇や連絡事項などについて職員が共通認識を持って対応できるように連絡、伝達体制を強化する。 5 スタッフ一人ひとりが従来の職域に固執せず、新たな業務にチャレンジする。
V	業務の強化・向上（従来からの強み・良い点の強化向上） 1 食事の満足度の向上のために、他部署のメニューや調理の情報を積極的に取り入れる。 2 就寝前介助や、送迎時の自宅での支援を積極的に行い介護者の負担軽減を行う。 3 運営推進会議を通じて地域への情報発信を行い、災害時に活かせる関係作りを構築する。
VI	業務の新たな試み（新たなニーズへの対応・開発） 1 運営推進会議を通して地域のニーズを把握し、介護保険制度の範囲にとどまらない柔軟なサービスを模索する。 2 一般デイサービスとの娯楽活動等の業務連携を取り、双方のご利用者にとって、より良いサービスを提供する。

平成29年度事業計画 部門名	計画責任者：氏名
訪問介護	海瀬 由香利
I	<p>事業基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」基本理念に基づき、ご利用者やご家族の気持ちに寄り添い、ひとり、ひとりの個人と生活を尊重し、尊厳をもって住み慣れた家で過ごすことが出来よう、笑顔でサービスを提供する。 介護者の負担軽減となるよう、確かな知識、技術を持ってサービスを提供する。
II	<p>業務目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ご利用者の望む在宅生活を実現するために、根拠に基づいた業務を遂行。 援助上の判断や行動をする基準はご利用者である事を常に念頭において業務にあたる。 ご利用者やご家族からの満足と信頼を獲得する事で地域社会の福祉向上と発展を推進する。
III	<p>事業数値目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 稼働時間 600時間（月） 利用者数 60名 特定事業所加算Ⅱ（10%加算）継続
IV	<p>業務の改善・見直し（部門の従来からの欠点・弱点の改善）</p> <ol style="list-style-type: none"> 登録型ヘルパーの働き方には、個々に制約がある為、フルタイム職員を転属し、新規ご利用者確保に努めサービス基盤を充実する。 ご利用者のニーズに柔軟かつ臨機応変に対応できる細かいシフトを作成する。 細かいシフトにより業務の調和を図り、効率的に働き長時間労働の改善を図る。 登録型ヘルパーの「移動時間」も労働時間として扱う労働条件を事務局と構築する。
V	<p>業務の強化・向上（従来からの強み・良い点の強化向上）</p> <ol style="list-style-type: none"> 学研介護サポート「eラーニング」を活用したヘルパーの個別研修を企画し、少人数で実施する。 研修やヘルパー連絡報告会でヘルパーの専門性を高める取り組みを行い、より質の高いサービスの向上に努める。 法人内の各部門との業務改善会議を開き、相互連携や情報共有し、サービスの質の向上を図る。 モニタリングや再アセスメントにより、自立支援と生活機能維持・向上につなげ、訪問介護計画書を作成し実施する。 常勤職員が増えることにより、今までできなかったニーズに答えられるよう、サービスを強化する。
VI	<p>業務の新たな試み（新たなニーズへの対応・開発）</p> <ol style="list-style-type: none"> 各部門の業務に関心を持ち、理解を示すと共に、訪問の魅力をアピールすることで、法人内の人材を活用できる体制を構築する。 地域において常に情報収集を行い、横浜市訪問型生活援助サービス等の新しいサービス実施について検討する。